

平成24年度第1回公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日 時：平成24年4月23日（月）13時30分～15時00分

場 所：熊本県立大学大会議室

出 席：学長	古賀 実
副学長	半藤 英明
事務局長	益田 和弘
文学部長	山田 俊
環境共生学部長	堤 裕昭
総合管理学部長	松尾 隆
地域連携センター長	松添 直隆
学術情報メディアセンター長	三浦 章
環境共生学研究科長	北原 昭男
熊本日日新聞社新聞博物館長	平野 有益
昭和女子大学大学院特任教授	渡辺 満利子

欠 席：熊本県公立高等学校長会会長 森塚 利徳

事務局：田代事務局次長、元島教務入試課長、安達学生支援課長、福永総務課長、田中学術情報メディアセンター事務長、前田地域連携センター事務長、教務入試課阿蘇品班長、同課西本班長、総務課浅川班長、企画調整室北島主幹

1 開会（進行：田代次長）

2 学長挨拶

3 議事（議長：古賀学長）

（1）審議事項

① 教員採用に係る枠取りについて

事務局総務課から、資料1に基づき「環境共生学部における地域計画学を専門とする教授または准教授1名の枠取りである。枠取りの理由は、定年退職教員の補充であり、平成25年4月1日の採用を予定している。」との説明があり、続いて環境共生学部長から、「前任者の担当授業・研究分野を引き継ぎつつ、分野をあまり絞らず、都市から中山間地域に至るまでの様々な地域を対象として環境との関わりについて担当する教員が望ましく、博士の学位を有する者、大学あるいは工業高等専門学校等における十分な教育歴を有する者、地域と環境との係わりを考える分野に関する研究業績がある者、教育・研究及び学科・研究室の運営に熱意を持って取り組む意欲のある者を条件とし、有能な人材を集めるため教授のみに限定せず、教授または准教授としての採用を希望する。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

## ② 熊本県立大学客員教授の選考について

古賀学長から、資料2に基づき、「客員教授制度は、平成18年度に規程を整備し、特任教授、特別講師とともに平成19年度から施行した特別教員制度であり、本学における教育研究の充実と大学の活性化を図ることを目的としている。本学の前理事長である蓑茂壽太郎氏は、造園学、都市農村計画、環境計画の分野において著名な研究者であり、東京農業大学及び本学でも、数多くの特筆すべき教育・研究の業績をあげられている。氏の講義を聞く機会を得られることは、本学学生の教育にとって大きなプラスになると考えられ、本学客員教授にふさわしい人物である。」と説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

## ③ 平成25年度入学者選抜の実施方針について

環境共生学部長から、環境資源学科の選抜方法等見直しについて「自己推薦型入試により入学した学生について、入学後の成績に二極化が見られ、成績が上がらず修学に苦労する学生が散見される。また、推薦入試については、入学後の成績が優秀な学生が多いが、志願者数の低迷が続いている。そのため、志願者数を増やすとともに、優秀な学生を確保したい。」と現状説明があった。引き続き、事務局教務入試課から資料3に基づき、「平成25年度の学部の入学者選抜は、特別選抜については、環境資源学科の推薦入試の募集人員を2名増の5名とし、うち3名以上を熊本県内高等学校卒とする。同学科の農業・林業・水産科推薦入試を新設し、募集人員を若干名とする。また同学科の自己推薦型入試については、廃止する。一般入試については、英語英米文学科の前期日程を昨年度と比べ5名増の25名、後期日程を5名減の13名とする。環境資源学科の後期日程を昨年度と比べ2名増の10名とする。その他の学科及び大学院については、選抜方法、入学定員、募集人員及び日程は昨年度と同様で実施予定である。」と説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

## ④ 平成27年度一般入試の実施教科・科目等について

事務局教務入試課から、資料4に基づき、「平成24年4月からの「数学」・「理科」の高等学校学習指導要領改訂を受け、平成27年度大学入試センター試験の出題科目が発表された。「数学」はほぼ現行どおりだが、「理科」は大きく変更されたことを受け、本学の平成27年度一般入試における大学入試センター試験及び個別学力検査の出題教科・科目を決定する必要がある。大学入試センター試験については、文学部及び総合管理学部については、Aパターン（物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2科目）もしくはBパターン（物理、化学、生物、地学から1科目）から1つ選択。環境共生学部環境資源学科及び居住環境学科については、Cパターン（物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2科目＋物理、化学、生物、地学から1科目）もしくはDパターン（物理、化学、生物、地学から2科目）から1つ選択。環境共生学部食健康科学科については、Dパターン。また、環境共生学部一般入試前期日程試験の理科の個別学力検査

について、環境資源学科及び居住環境学科については、物理、化学、生物から1科目選択。食健康科学科については、物理、化学、生物から2科目選択する方法案を考えている。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

#### ⑤ 授業料未納に伴う学生の除籍について

事務局総務課から、資料5に基づき「平成23年度の授業料が未納である学生1名について、督促・催告し、除籍予告を行ったが、現在まで納付されていない。本人とは連絡がとれない。本人の保証人や教授会において、納付がなければ除籍はやむを得ないと了承を得ているという現状であり、除籍についてご審議いただきたい。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

### (2) 報告事項

#### ① 平成24年度一般入試における追加合格者決定について

事務局教務入試課から、資料6に基づき、「前期日程で食健康科学科において欠員が1名、後期日程で環境資源学科において欠員が1名、総合管理学科B方式において欠員が3名生じたため、3月28日に追加合格者決定の手続きを行い、入学定員を確保した。」との報告があった。

#### ② 平成24年度入学者の状況について

事務局教務入試課から、資料7に基づき、「入学者の状況は、男性の割合は31.5%と昨年度より5%程度減少、県内出身者は76.8%で昨年度より4%程度減少し平成22年度と同程度になっている。学部の定員充足率は、全体で107.7%。出身校別では、県内は県立第二高等学校が前年から8名増で38名と最多。県外の最多は鹿児島県の鹿児島中央高等学校と伊集院高等学校で各5名が入学している。大学院の入学状況については、全体の定員充足率は83.6%。」との報告があった。

#### ③ 平成23年度4年生アンケート調査結果について

事務局教務入試課から、資料8に基づき、「このアンケートは、平成20年度から実施し今回が4回目。実施時期は平成23年12月から24年2月。質問内容は①学生の属性、②教育に対する満足度及び重要度、③学生サポートや学生サービスに対する満足度、④施設・設備に対する満足度、⑤大学生活の満足度等の5問。回収率は全学で92.5%。結果としては、本学の教育の中で満足度が高い項目は、「目標とする先生や目標を持った仲間に出会い、切磋琢磨すること」、「幅広い視野や考え方を身につけること」。本学の教育における重要度が高い項目は、「コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけること」、「自分自身や将来やりたいことを考えること」、「目標とする先生や目標を持った仲間に出会い、切磋琢磨すること」。満足度と重要度の差が最も小さい項目は、「専門分野

の研究に触れること」。逆に、満足度と重要度の差が最も大きい項目は、「外国語能力を身につけること」であった。また、大学生活の満足度については、「満足」及び「やや満足」とする回答の合計が95.7%となっており、「親戚や後輩等に本学を勧めるか」という問については、「勧めたい」、「本人の志望動機が本学に沿っていれば勧めたい」とする回答の合計が90.8%であった。」との報告があった。

#### ④ 平成24年3月卒業生の就職等決定状況について

事務局学生支援課から、資料9に基づき、「平成20年後半からの世界的な金融不安による景気悪化の影響を受け、平成23年度卒業生の全体の就職率は、平成24年4月15日現在で89.1%であり、回復傾向は見られるが厳しい結果となっている。文学部81.8%、環境共生学部92.1%、総合管理学部89.6%。業種別では、景気悪化により公務員志望の増加が目立っている。」との報告があった。

#### 4 その他

次回日程 平成24年度第2回 5月14日（月）午後1時～ 本部棟2階大会議室

#### 5 閉会